

日本スポーツ社会学会会報

Vol. 64



＝目次＝

1. 日本スポーツ社会学会第 25 回大会実施要項 … 2
 2. 今後の研究企画 … 5
 3. 研究委員会からの報告 … 6
 4. 電子ジャーナル委員会からの報告 … 7
 5. 編集委員会からのお知らせ … 7
 6. 国際交流委員会からのお知らせ … 8
 7. 25 周年記念誌編集委員会からのお知らせ … 8
 8. 2015 年第 2 回理事会議事録 … 8
 9. 事務局からのお知らせ … 11
- 編集後記 … 11

1. 日本スポーツ社会学会第25回大会実施要項

1. 開催期間

2016年3月20日（日）・21日（月）

2. 会場

一橋大学国立キャンパス（国立市中2-1）

○アクセス方法

JR 東京駅から中央線快速で約50分（中央特快を国分寺駅で乗り換の場合、約41分）

<http://www.hit-u.ac.jp/guide/campus/access.html>

【最寄り駅】 中央線国立駅南口から徒歩約10分

* 国立キャンパス交通案内

<http://www.hit-u.ac.jp/guide/campus/kunitachi.html>

（会場は東キャンパスになります）

○宿泊関係

宿泊の斡旋はしておりません。ご自身での確保をお願いします。

3. 主催

日本スポーツ社会学会 <http://jsss.jp/index.html>

4. 日程（予定）

	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00
20日			理事会	受付	学生 フォーラム 13:00- 14:30		一般発表		学会 総会	懇親会
21日			一般発表	(昼食) 国際交 流委員 会ラン チョン ミーテ ィング	大会実行 委員会企画 特別講演 「アメリ カの大学 スポーツ」		研究委員会 シンポジウム 「スポーツと視覚」 14:30-17:30			

※このスケジュールは、研究発表論題数や各委員会の都合により変更になる場合があります。

※シンポジウムの内容については、詳細が決定し次第、大会HPに掲載します。

○懇親会

日時：3月20日（日） 18:00～（予定）

会場：一橋大学国立東キャンパス マーキュリータワー

会費：5,000円（学生会員4,000円）

5. 大会までの主なスケジュール

事 項	締 切 日
一般研究発表申込	2016年1月15日(金) ← <u>変更になりました</u>
大会参加早期申込(早割)	2016年1月29日(金)
一般研究発表抄録提出締切	2016年2月1日(月)

6. 大会参加申込

日本スポーツ社会学会第25回大会ホームページ(<http://jsss.org/>)「参加申込み」ページから、その指示に従って必要事項を記入の上、送信してください。参加費の早期割引を受けるためには、ホームページ上の「申込み手続き」および「入金」がともに2016年1月29日(金)までに完了していることが必要です。

【参加申込先】第25回大会ホームページ(<http://jsss.org/>)

【参加費】参加申込と同時に、「郵便振替票」にて大会参加費を大会実行委員会口座までお送りください。

☆早割：2016年1月29日(金)まで

正会員 11,000円(懇親会不参加の場合 6,000円)

学生会員 7,000円(懇親会不参加の場合 3,000円)

★2016年1月30日(土)以降

正会員 12,000円(懇親会不参加の場合 7,000円)

学生会員 8,000円(懇親会不参加の場合 4,000円)

非会員・一般 13,000円(懇親会不参加の場合 8,000円)

非会員・学生 9,000円(懇親会不参加の場合 5,000円)

【参加費振込先】*下記の二つから選ぶことができます

①普通口座 10190-84965091 (ゆうちょ銀行口座をお持ちの方はこちらが便利です)

②振替口座 00120-9-450837 (他行から払い込みをされる方はこちらがお得です)

口座名称(①②とも同じ) 「日本スポーツ社会学会 25回大会実行委員会」

※口座名称について、ゆうちょ銀行の規定で、20文字の制限がありますので、「第25回大会」ではなく「25回大会」になっておりますので、ご注意ください。

7. 一般研究発表

1) 発表申込締切日 2016年1月15日(金) ← 変更になりました

大会ホームページ(<http://jsss.org/>)の発表申込みページから、その指示に従って必要事項を記入し、送信していただくことで、発表申込みができます。

発表内容については、上記ページの該当箇所に、1200~1600字程度(英文の場合は300ワード程度)の概要を記入し、送信してください。

2) 一般研究発表の資格に関する注意事項

「日本スポーツ社会学会大会開催に関する規定」第5条による、一般研究の発表者の資格は以下の通りです。

- 1) 発表者および共同研究者は、日本スポーツ社会学会会員であること。
- 2) 発表者および共同研究者は、その年の年会費を納めていること。

- 3) 発表者は大会参加費を納めていること。
4) 大会に参加しない共同研究者は、大会参加費を納める必要がないこと。

発表者は、「年会費」「大会参加費」の納入についてご確認ください。未納の場合は発表できません。

納入の確認が必要な場合、年会費については学会事務局へ、大会参加費については学会大会実行委員会へお問い合わせください。

学会事務局メールアドレス：jsssjimukyoku@gmail.com

学会大会実行委員会メールアドレス：sport.sociology25@gmail.com

- 3) 発表抄録原稿の提出締切日 **2016年2月1日(月)**

発表申込みをしていただいたのち、研究委員会にて審査がおこなわれます。審査を経て、学会発表が許可されたものについては、発表抄録の原稿を提出していただきます。

発表抄録原稿用テンプレートは、大会 HP からダウンロードできます。書式を利用するには、Microsoft Office Word 2007（あるいはそれ以上の年式）が必要です。テンプレートの書式に従って作成いただいた原稿は、2016年2月1日(月)までに、以下のメールアドレス宛に添付ファイル送信してください。

発表抄録原稿受付メールアドレス：sport.sociology25@gmail.com

※件名には「日本スポーツ社会学会発表抄録」と記載してください。

- 4) 一般研究発表に関する注意事項

一般研究発表の時間は、発表 20 分、質疑応答 10 分です。発表の際に必要な機器がある場合（PC、プロジェクタ、VTR(VHS のみ対応)、DVD など）は、発表申込みの際に、当該箇所にその旨を記載して、申し出てください。パワーポイントによる発表を希望する方は、できるだけUSBメモリにデータを持参してください。当日、発表資料を配付する場合は、各自で 70 部以上を持参してください。

8. 昼食について

学会大会開催時、キャンパス内の食堂は春休み休業中ですが、国立駅周辺には飲食店等が点在しておりますので、そちらをご利用ください。

9. 学会大会実行委員会

実行委員長 坂上康博（一橋大学社会学研究科）

実行委員 尾崎正峰（一橋大学社会学研究科）・坂なつこ（一橋大学社会学研究科）

鈴木直文（一橋大学社会学研究科）・中澤篤史（一橋大学社会学研究科）

笹生心太（東京女子体育大学）

（学内委員）岡本純也（一橋大学商学研究科）・中村英仁（一橋大学商学研究科）

関根美智子（一橋大学助手）

【大会に関する問い合わせ】

Email：sport.sociology25@gmail.com



2. 今後の研究企画

1) 第2回関西学生フォーラム

日時：2016年1月10日(日) 14:00～

会場：龍谷大学セミナーハウス「ともいき荘」2階研修室

内容：①個人研究報告会(14:00～15:00)

・竹村直樹(龍谷大学)

「高校野球と連帯責任—歴史社会学からの一考察—」

②勉強会(15:00～17:00)

・趣旨説明

・浜田雄介(九州共立大学)

課題本：迫俊道、2010、『芸道におけるフロー体験』、溪水社。

・小丸超(龍谷大学)

課題本：平尾剛、2014、『近くて遠いこの身体』、ミシマ社。

*勉強会では、担当者が課題本をもとに話題を提供し、自由に活発な議論を展開したいと考えております。

③会議、懇親会(17:00～)

問い合わせ先：masarukomaru@ever.ocn.ne.jp(龍谷大学：小丸超)

2) 第2回研究例会

日時：2016年1月24日(日) 14:00～17:00

場所：早稲田大学 東伏見キャンパス 302教室

内容：提供されたビデオデータを題材にデータセッションをおこなう。

話題提供者：海老田大五朗(新潟青陵大学)、リー・トンプソン(早稲田大学)

文献：Heath, C. & Hindmarsh, J. & Luff, P. 2010. Video in Qualitative Research. Sage Publications.

3) 第2回関東学生フォーラム

日時：2016年2月14日(日) 13:00～(予定)

場所：東京理科大学神楽坂キャンパス 5号館・地下1階 511ゼミ室(予定)

個人発表の開始時間および場所につきましては、発表申し込みの件数により変更になる可能性があります。詳細が決まり次第、改めてお知らせいたします。

発表をご希望される方は1月30日(土)までに世話人の竹崎宛に発表希望の旨をお伝えください。

連絡先：竹崎一真(筑波大学大学院) E-mail: so064089@yahoo.co.jp

4) 第25回大会研究委員会企画

(1) 研究委員会主催シンポジウム

タイトル：スポーツと視覚

登壇者：ラリーサ・シンドラー(ハンブルグ大学)、鷺谷洋輔(トロント大学)、磯直樹(大阪大学)

コメンテーター：リー・トンプソン(早稲田大学)

(2) 学生フォーラム

タイトル：「気づかせる」指導とはどういうものか—コーチングの社会学に向けて—

話題提供者：平尾剛先生（神戸親和女子大学）、迫俊道先生（大阪商業大学）

指定討論者：倉島哲先生（関西学院大学）



3. 研究委員会からの報告

1) 第1回関西学生フォーラム

日時：2015年7月25日（土）14:00～

会場：龍谷大学セミナーハウス「ともいき荘」

内容：個人研究報告会

(1) 佐藤 彰宣（立命館大学大学院）

「スポーツ出版史の構想—ベースボール・マガジン社にみる『読むスポーツ』の系譜」

(2) 浜田 雄介（九州共立大学）

「エンデュランススポーツの特性としての『禁止』／『侵犯』」

2) 第1回関東学生フォーラム

日時：2015年8月5日（水）14:00～

場所：東京理科大学神楽坂キャンパス

内容：

(1) 個人発表 14:00～

○堀響一郎（日本大学大学院）

「可視化されないマイノリティのスポーツ実践の研究—吃音症の野球選手を対象として」

(2) 書評会 16:00～

『アスリートを育てる〈場〉の社会学：民間クラブがスポーツを変えた』（青弓社、2015年）を上梓された松尾哲矢会員（立教大学）をお招きし、同書籍を読んで、議論をおこないました。

3) 第1回研究例会

日時：2015年9月21日（月）14:00～17:00

場所：早稲田大学東伏見キャンパス STEP22-302 教室

内容：課題論文 **The production of vis-ability** をもとに議論をおこなう。

話題提供者：石岡丈昇（北海道大学）、倉島哲（関西学院大学）

内容：3月のシンポジウムに登壇予定の Larissa Schindler さん（ハンブルグ大学）の執筆した **The production of vis-ability: An ethnographic video analysis of a martial arts class** (In: U. Kissmann (eds.): **Video Interaction Analysis**. Frankfurt/M.: Peter Lang, S., 2009) という論文を読んで、議論をおこないました。

研究委員会委員長：リー・トンプソン（早稲田大学）



4. 電子ジャーナル委員会からの報告

前号で報告しましたように、電子ジャーナル委員会では 2016 年第 24 巻第 1 号以降、学会誌『スポーツ社会学研究』を電子ジャーナル化し、総合学術電子ジャーナルサイト J-Stage (<https://www.jstage.jst.go.jp>) にて公開するよう準備を進めています。また、2009 年以降の既刊誌の電子ジャーナル化につきましてもあわせて作業を行っています。現在 J-Stage 公開の審査中で、当初予定より進捗が遅れています。既刊誌の電子化については総会での承認を得て予算化されていますが、今年から会計年度の変更にともない、12 月で締めを行わなければならないため、いったん 2016 年に事業を先送りし、改めて理事会、総会の承認を得ることといたします。2016 年以降の新刊についても、J-Stage での審査を経た後に準備に入ります。

また、前号で J-Stage での掲載形式について検討を行っている旨お知らせしましたが、委員会、理事会での審議を経た結果、変更なく XML 形式での掲載方法を採用することになりました。変更点は、当初予定していた学会 HP での論文の早期公開を、J-Stage での早期公開に切り替えて実施することになりました。こちらは理事会での承認を得ましたので、最終的に総会での承認を得て進めるかたちになります。

電子ジャーナル委員長 石坂友司（奈良女子大学）



5. 編集委員会からのお知らせ

＜注意＞J-Stage 掲載に伴う次々号（第 24 巻第 2 号）からの投稿の仕方の変更について

先の総会で承認されましたように、本学会の研究成果は J-Stage にも掲載されることとなります。これに伴い論文投稿方式が変更されますのでご注意ください。

投稿はこれまで年二回締め切りを設けて募集していたものから、指定のアドレスで常時投稿を受け付けるものに変更されます。従っていつでも投稿できるものとなります。また、投稿は原則としてメールによるものとします。その他、従来の投稿様式の一部変更が予定されています。

この新方式は 2016 年 3 月の理事会、総会の承認を経て、2016 年 3 月 31 日より施行される予定です。それまでは投稿を受け付けておりませんのでご注意ください。投稿される方は総会終了後直ちに掲載いたします学会 HP の「研究機関誌発行に関する規定」（改訂版）をご熟読の上ご応募下さい。次々号の第 24 巻第 2 号（2016 年 10 月発刊予定）に掲載を希望されておりますかたは、査読など編集の時間が必要ですから、遅くとも 2016 年 4 月中には投稿をお願いいたします。この件につきましてご質問等ございましたら、事務局経由で編集委員会におたずね下さい。

編集委員長 山下高行（立命館大学）



6. 国際交流委員会からのお知らせ

国際交流委員会では、研究のグローバル化が進む昨今において、本学会会員の国際学会での研究成果の発表や研究誌への報告の活性化を目指した情報交換を行うために、本年度の学会大会 2 日目の昼食時に「ランチョンミーティング」を行うことを計画しています。

国際学会の状況、会長やアジア諸国の対応、学会誌の内容に関する情報など、国際的な研究環境を概観するとともに、国際誌への投稿のための情報等などについても情報交換・意見交換し、学会での研究活動が国際化する雰囲気作りをアシストしていきたいと考えています。詳細につきましては、今後の学会大会の案内をご覧くださいと思います。昼食を持参いただきながら、ぜひ、多くの会員の皆様のご参加がいただけましたら幸いです。どうぞよろしくお願い申し上げます。

国際交流委員会

松田恵示（委員長）、清水諭、後藤貴浩



7. 25 周年記念誌編集委員会からのお知らせ

本学会が本年度で 25 周年を迎えることを記念して、これまでの日本スポーツ社会学会の歩みを資料としてまとめた「25 周年記念誌（仮題）」の編集を進めています。学会大会史や組織・運営の歴史、研究誌総目次など、日本スポーツ社会学会の 25 年を、資料ベースで振り返ることができる内容となりそうです。

今後、組織や研究活動に関連して、過去の記録等に間違いがないかなど、事務局を通じて会員の皆様からのご協力をお願いさせていただくことも予定しております。大変お忙しい時期と重なりますが、なにとぞお力添えをいただけましたら幸いです。どうぞよろしくお願い申し上げます。

松田恵示（編集委員会事務局）



8. 2015 年第 2 回理事会議事録

期 日：平成 27 年 8 月 27 日（木）16：30～19：30

場 所：国士舘大学世田谷キャンパス 34 号館 A401 教室

出席者：石坂、菊、倉島、後藤、坂、清水、杉本、高峰、中江、松尾、水上、山下（以上、理事）、高尾（事務局庶務）

欠席者：石岡、トンプソン、松田

1. 議事録の確認

杉本理事長から前理事会の議事録に関する確認が求められ、原案通り承認された。

2. 報告事項

2-1 各種委員会

・編集委員会

山下委員長より、『スポーツ社会学研究』第 23 巻第 1 号の発行が通常よりも 10 日程遅れて、10 月 9 日から 15 日のあいだに行われる予定であるとの報告があった。委員会

内で検討の結果、遅れの原因は原稿執筆の遅れや企画段階での問題などにあり、改善する旨の報告があった。なお、次号の構成は特集論文が1本、特別寄稿が1本、原著論文が2本（計4本の投稿のうち）、書評1本、との報告があった。

- ・研究委員会

水上委員より、今後の活動計画および関西・関東でそれぞれ開催された学生フォーラムについて報告があった。倉島委員より、研究委員会の研究テーマである「スポーツと視覚」の趣旨に関する説明がなされた。なお、「学生フォーラム」の名称を再考すべきではないかとの意見も出され、今後の検討課題となった。

- ・国際交流委員会

清水委員より、前年度からの引き継ぎ事項および今年度の活動の検討事項案について報告があった。引き継ぎ事項に関しては、韓国スポーツ社会学会との交流協定にもとづく交流活動の再整理について、今後、松田委員長などが山下会員（前国際交流委員長）とともに訪韓し、協議を進めるということが報告された。本年度の取り組みでは、会員の国際研究誌への投稿の促進方策、国際的な関連学会との関係強化、国際学会の開催および参加者による報告内容の発信、本会の国際化推進、40歳以下の若手会員における国際交流の活性化（2020年までに国際ワークショップを開催するなど）、さらに各大学で行っている国際化に関する情報の収集および本学会の貢献可能性の吟味、が検討事項としてあがっていることが報告された。

- ・広報委員会

高峰委員長より、会報の発行およびHPアップ作業等の活動について報告があった。このなかで、メール配信が不通となっている会員については、メールアドレスの登録をHPおよび学会誌郵送時の文書等で呼びかけることが決まった。また、会報PDFのHPへのアップについては発行から半年後に行うことが確認された。

- ・電子ジャーナル委員会

石坂委員長より、進捗状況について報告があり、詳細については、審議事項の中で議論するとの提案があった。

- ・創立25周年記念誌委員会

松田委員長欠席のため、杉本理事長より3月の出版に向けて順調に進んでいるとの進捗状況の報告があった。

- ・事務局

事務局より、退会者および会員種別の変更について報告があった。

2-2. その他

- ・第24回学会大会（関西大学）の会計報告

同大会実行委員長の杉本理事長より報告があった。他の理事からは、「日本スポーツ体育学術連合からの補助金5万円について記載がない」との指摘があったが、杉本理事長（同大会実行委員長）から、同大会実行委員である西山会員から研究委員会に引き継いでいる、とのことであった。また、「人件費の割合が大きい、その詳細を知りたい」との質問があった。この2件については、詳細を確認した後、再度報告がなされることとなった。

- ・第26回大会の件

杉本理事長より、信州大学松本キャンパスでの開催（平成29年3月20～21日予定）について、同大学所属の橋本純一会員より申し出があったとの報告がなされた。

3. 審議事項

3-1. 編集委員会

山下委員長より、学会誌の「執筆要項」内での使用原語の関する規定について、意見が求められた。審議の結果、使用言語を日本語とすることで、次回の総会に編集委員会から報告されることになった。

電子ジャーナル化の変更に伴い、委員長から編集体制の変更に対する意見が求められた。他の理事からは、「他の学会誌に再投稿することを防ぐために、継続性を重視した仕組みにするべきではないか」、「査読者に対する『査読上の規定』を新たに明示化した方がいいのではないか」、「今回の編集体制の提案は、前回理事会での承認事項とは異なるのではないか」との意見が出され、これにたいする委員会の考え方についての開陳があった。種々の検討の結果、次回理事会に向けて編集委員会が原案を作成し、これを上程することになった。

なお、前回理事会では来年 3 月 1 日に新しい体制を開始することが決まっていたが、これを 3 月 31 日とすることが、審議の結果、承認された。

3-2. 電子ジャーナル委員会

石坂委員長より、当初予定されていた電子ジャーナル化のあり方の変更案が提出された。具体的には、早期公開を学会 HP ではなく J-Stage 上での公開に変更することとし、承認された。J-Stage の仕様変更に伴い、検討を続けてきた Web 搭載機能を用いた電子ジャーナルのフォーマット変更 (XML→PDF) については、委員会で検討の結果断念したことが報告された。また、「電子ジャーナル内規」、電子化の方法について原案が示され、これが承認された。

3-3. 広報委員会

高峰委員長より、今後の HP の管理等のあり方について意見が求められた。管理に要する予算と業務委託の在り方も含め、広報委員会で再検討することになった。

3-4. 倫理規定を考える WG の立ち上げについて

杉本理事長より、新たな倫理規定を制定するためのワーキング・グループを設立することの是非について提案があり、審議の結果、これが承認された。

また、メンバーの人選について杉本理事に一任することも、あわせて承認され、杉本理事長、山下理事、石坂理事、倉島理事、井上顧問の 5 名が選出された。

3-5. 理事会規定の制定について

杉本理事長より、新たな理事会規定の制定の是非について提案があり、審議の結果、規定を制定することが承認された。なお、規定の内容については、理事長および事務局にて原案を作成し、次回理事会で審議し、それに伴う会則の変更について総会に上程することとなった。

3-6. 事務局

事務局より、平成 27 年度新規入会希望者について提案があり、審議の結果、計 6 名の新規入会が承認された。

3-7. その他

杉本理事長より、「事務局庶務」という名称について「事務局次長」に改める提案があり、審議の結果、これが承認された。

以上

9. 事務局からのお知らせ

- 今年度の年会費の振り込みをすませている方は、至急、手続きをとってくださいますようお願い申し上げます。
- 連絡先・所属先等の変更があった場合には、速やかに事務局までご連絡ください。
事務局長 坂なつこ（一橋大学）

編集後記

暖冬とはいえ、夏のうだるような暑さを忘れてしまいそうな気候になりました。

7月に会報をお届けしてから、新国立競技場のザハ氏案と東京 2020 エンブレムの佐野氏案が撤回され、ラグビーW杯では日本代表チームが活躍、そうした出来事に比べると地味にスポーツ庁が発足し、新国立競技場の新案が発表されて現在に至っています。この半年だけを見ても、歴史に残る出来事が現在進行形で進んでいるように感じます。

あと10日ほどで新年を迎え、箱根駅伝が話題にのぼることでしょう。W杯で注目をあつめたラグビーは80年代の日本のスポーツを彩る競技の一つでした。特に大学ラグビーは箱根駅伝よりも隆盛を極めていたように記憶しています。

年明け3月に一橋大学で開かれる第25回大会では「アメリカの大学スポーツ」が実行委員会企画として取り上げられます。この企画を通して日本の大学スポーツの現状を相対化し、将来への可能性を探ることができるかもしれません。研究委員会企画としては「スポーツと視覚」をテーマとするシンポジウムが行われる予定です。スポーツ社会学の研究にこれまでにはなかった視点を持ち込み、視野を広げてくれる可能性を感じます。

「スポーツ社会学研究」掲載論文のJ-Stage掲載作業が進んでいます。それに伴い、論文の投稿方法が変更になりますので、ご注意ください。（高峰修／明治大学）

- ◆学会への連絡、入退会、住所・所属・メール等の変更、会費納入、その他の各種手続き
日本スポーツ社会学会事務局 【事務局長】坂なつこ 【事務局次長】高尾将幸
E-mail: jsssjimukyoku@gmail.com
- ◆学会公式ホームページ
日本スポーツ社会学会公式ホームページ
<http://www.jsss.jp/>